



泉崎夜月



臨海潮聲



桑村竹籬



龍洞松濤



「江戸上り」から生まれた葛飾北斎「琉球八景」

15世紀初めに成立した琉球王国は、中国との冊封 - 朝貢関係の中で独自の文化を育んできました。1609年の薩摩侵攻以降は、日本の幕藩体制に組み込まれ、徳川将軍や琉球国王の代替わりの際に、琉球の使者が薩摩藩主にとともにわれて江戸へあいさつに行く「江戸上り（江戸立）」が始まりました。

中国風の衣装をまとい中国風の音楽・路次楽を演奏しながら進む行列と、馬に乗った美形の楽童子の姿を一目みようと、沿道には見物人が溢れ大変な騒ぎとなりました。

行列の様子を描いた図や浮世絵、琉球の情報を載せた本が次々と出版され、一大琉球ブームが「江戸上り」の度に沸き起こりました。

北斎が描いた「琉球八景」もそのブームの中で出版されたもので、1832年の江戸上りにあわせて制作されたと言われています。

琉球八景は、冊封使が中国皇帝への報告書としてまとめた『琉球国志略』が江戸でも刊行され、その中にあった挿図「球陽八景」を元にして、葛飾北斎が描いたと考えられています。

江戸の人々はこの版画を眺めながら、遠く離れた異国・琉球の情景に思いをはせていたのでしょう。



筍崖夕照



長虹秋霽



城嶽靈泉



中島蕉園